

令和7年度 北海道 英語教育改善プラン

目標

互いの考えや気持ちなどを伝え合う言語活動を通して、積極的にコミュニケーションを図ろうとする態度を身に付けた児童の育成

- 言語活動
 指導と評価の一体化
 教師の英語力・指導力
 校種間連携
 ALTの参画
 ICTの活用
 AIの活用
 その他
- (パフォーマンステスト含む)
 (専科教員含む)
 (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

未だ改善が必要な点

① 外国語教育の充実に係る情報や研修、自己研鑽の機会

⇒十分に設けていると肯定的に回答した学校の割合が増加
R5:85.4%⇒R6:88.6%

※全国学力・学習状況調査

② 中学校との連携

⇒中学校教員による乗り入れ授業を実施している小学校の割合が増加

R4:45.3%⇒R5:50.4%

※教育活動等に関する調査(道独自)

③ 学級やグループでの話し合いなどの活動で、自分の考えを相手にしっかりと伝える

⇒肯定的に回答した学校の割合が全国と比較し、高い状況
本道:92.0% (全国:87.2%)

※全国学力・学習状況調査

① 言語活動に関する理解

⇒言語活動を通じた指導について、英語担当教師の理解が不十分

② 「英語の勉強は好き」

⇒肯定的に回答した児童の割合が減少

R5:70.8%⇒R6:70.1%

※全国学力・学習状況調査

2. 要因分析

①② 学校訪問等や研修の機会に、道内の課題を踏まえた資料等の周知や小・中学校の系統的な指導の在り方について説明を行ったことにより、音声中心の学習から段階的に読むこと、書くことの指導の在り方などについて理解が深まり、小学校の外国語教育の特質を踏まえた指導の充実につながったと考えられる。

③ 全ての教科で主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を進めたことにより、自分の考えや意見を分かりやすく伝える態度が身に付いたと考えられる。

① 英語担当教師の言語活動や言語活動を通して指導することに対する理解に差が見られることから、研修の設定や資料の周知を継続的に行う必要がある。

② 児童が英語を学ぶ意義を実感する機会が少ないことから、英語を用いて自分の考えや気持ちを伝え合う言語活動を行う必要がある。

3. 目標を達成するための施策・事業

①② 教師の指導力向上に向けた研修の実施

英語担当教師を対象とした研修（E-Lineセミナー等）や、道立教育研究所と連携した研修など、文部科学省の調査官の講義や研究推進校の実践事例を活用した協議等を行うことを通して、児童の興味・関心のある題材を用いた言語活動や、コミュニケーションを行う目的、場面、状況などを明確に設定した言語活動の重要性などについて理解を深める研修を実施

①② 指導力向上ネットワークの構築・運用

英語担当教師の授業実践に係る課題解決に向けて、英語担当教師が日常的に研修資料や各種研修講座の情報を得たり、交流したりすることができるオンライン上のネットワーク（E-Netコミュニティ）を構築

② ALTとのオンライン交流の実施

他地域に住むALT等とオンラインで交流する体制を整備し、児童が英語使用の有用感や、達成感を実感できる機会を確保することによる、児童が生きた外国語に触れる機会の一層の充実

① 一定の英語力を有する小学校教員の新規採用に係る取組

教員採用候補者選考検査における加点制度による一定の英語力を有する小学校教員の確保

〔参考〕北海道教育委員会 外国語教育のWebページ
URL:<https://www.dokyoi.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gky/english.html>

令和7年度 北海道 英語教育改善プラン

目標

4 技能 5 領域のバランスの取れた言語活動を通して、外国語によるコミュニケーション能力を身に付けた生徒の育成

○ CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合 (R6 : 46.8% ⇒ R7 : 56.0%)

言語活動
 指導と評価の一体化
 教師の英語力・指導力
 校種間連携
 ALTの参画
 ICTの活用
 AIの活用
 その他 (AIを除く)

(パフォーマンステスト含む)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

① ICTを活用した言語活動の充実

⇒遠隔地の教師やALT等とチーム・ティーチングを行っている学校の割合が、昨年度と比較し増加

R5:6.3%⇒R6:14.8%

※英語教育実施状況調査

② 家庭学習におけるICT機器の活用

⇒英語の学習に月1回以上活用している学校が7割以上

R6 : 70.7%

※英語教育実施状況調査

未だ改善が必要な点

① 4技能5領域のバランスが取れた指導

⇒即興でやり取りを行う言語活動が、他の領域と比較して少ない

R5:25.2%⇒R6:25.5%

(R6全国28.1%)

※全国学力・学習状況調査

② 生徒の英語力

⇒CEFR A1レベル相当以上の英語力を取得または有すると思われる生徒の割合が減少傾向

R5:49.1%⇒R6:46.8%

※英語教育実施状況調査

2. 要因分析

① 北海道特有の広域性において、ICTを活用した言語活動の充実が効果的であることについて理解が深まったことにより、遠隔地の教師やALT等とチーム・ティーチングを行った学校が増加したと考えられる。

② 学校訪問等や研修の機会に、ICTを活用した家庭学習の取組について周知したことにより、取組を行う学校が7割を超えたと考えられる。

① 話すこと[発表]領域や書くこと領域に関する学習活動に偏った指導計画がみられることから、4技能5領域のバランスの取れた指導計画を作成するよう指導する必要がある。

② 英語担当教師の学習評価に対する理解に差が見られることから、「内容のまとめりごとの評価規準」を踏まえ、指導と評価の一体化の実現に向けた学習評価の改善を図る必要がある。

3. 目標を達成するための施策・事業

① ALTとのオンライン交流の実施

他地域に住むALT等とオンラインで交流する体制を整備し、生徒が英語使用の有用感や、達成感を実感できる機会を確保することによる、生徒が生きた外国語に触れる機会の一層の充実

①② 各種研修講座の実施・周知

英語担当教師を対象とした研修（E-Lineセミナー等）や、道立教育研究所と連携した研修など、文部科学省の調査官の講義や研究推進校の実践事例を活用した協議等を行うことを通して、5領域にわたる言語活動を有機的に関連させた指導計画の作成や指導と評価の一体化の充実に向けた評価規準やパフォーマンステストの作成などについて理解を深める研修を実施

①② 指導力向上ネットワークの構築・運用

英語担当教師の授業実践に係る課題解決に向けて、英語担当教師が日常的に研修資料や各種研修講座の情報を得たり、交流したりすることができるオンライン上のネットワーク（E-Netコミュニティ）を構築

① 特別受験制度の周知

年間2回の特別受験制度を活用できる外部検定試験の一覧の作成・周知による外部検定試験の受験の促進

〔参考〕北海道教育委員会 外国語教育のWebページ
URL:<https://www.dokyoj.pref.hokkaido.lg.jp/hk/gky/english.html>

令和7年度 北海道 英語教育改善プラン

複数領域の統合的な言語活動による、英語で情報や考えなどを的確に理解したり適切に表現したり伝え合ったりする力の育成

目標

○CEFR A2/B1レベル相当以上の英語力を取得又は有すると思われる生徒の割合
(R6: A2以上 50.7%、B1以上 15.6% ⇒R7: A2以上 56%、B1以上 27%)

言語活動 指導と評価の一体化 教師の英語力・指導力 校種間連携 ALTの参画 ICTの活用 AIの活用 その他
(パフォーマンステスト含む) (AIを除く)

1. 目標に対する現状

改善が進んだ点

①生徒の英語による言語活動時間の割合が増加。(50%以上)

R5	R6
87.8%	94.0%

②授業中の教員の英語使用の割合は、全国上位を維持。(50%以上)

R5	R6
76.2%	70.4%

未だ改善が必要な点

①生徒の英語力向上に影響を与えと考えられる「教員の英語力(CEFR B2レベル相当以上の英語力)」は増加したが、全国と比較して低い状況。

R5	R6
55.1%	56.8%

2. 要因分析

①②道教委作成の「教育課程編成・実施の手引」及び北海道高等学校各教科等教育課程研究協議会等を通して、英語による言語活動の充実や探究的な学びに関する教員の理解が深まったことにより、授業改善が進んだと考えられる。

②コミュニケーションの目的や場面、状況などを適切に設定した上で、生徒の英語による言語活動を中心とした授業を行っている学校が多いことから、全国と比較して教員による英語使用の割合が高いと考えられる。

①英語の外部試験の受験会場の関係から、地域によっては、外部試験の受験のために移動の時間と費用がかかること、また、教員が、校務や部活動等を理由に、自身の英語力向上のための時間を確保できていないことが要因と考えられる。

3. 目標を達成するための施策・事業

- ①②「Hokkaido パフォーマンステスト参考資料」の作成・普及
- ・中高教員が連携し、オンラインによる作成会議を重ね、パフォーマンステストの実践事例集を作成する。
- ・参考資料では、コミュニケーションの目的や場面、状況などを明確にした言語活動の設定と、目標を達成するための授業づくりのポイントを明示する。
- ・習熟度等に応じた指導と評価のポイントを示すなど生徒の実態に応じて活用できるように作成する。
- ・生徒の英語による言語活動の質の向上を図るための生成AIの活用方法を提案する。



- ①②「教育課程編成・実施の手引」の作成及び北海道高等学校各教科等教育課程研究協議会の実施
- ・指導主事と高校教員が連携して作成した手引を活用し、授業における生徒の英語による言語活動の充実と、生徒の言語活動を支える教師の英語使用を一層促す。
- ①「教師の英語力・指導力の向上のための実践的オンライン研修」(文部科学省)の受講促進及び特別受験制度の周知
- ・学校訪問等の機会を活用し、研修受講や特別受験制度を用いた外部検定試験の受験を引き続き促すとともに、英語資格・検定試験を実施する外部機関等と連携し、道教委主催の研修会等において、英語教員の英語力向上の重要性について指導・助言を行う。

北海道教育委員会

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
高等学校	①CEFR A2レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	52	49.3	54	50.7	56		58		60		
	①CEFR B1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	26	15.3	26	15.6	27		28		30		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	100	87.8	100	94.0	100		100		100		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	100	76.2	100	76.0	100		100		100		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	100	87.8	100		100		100		100	
		達成状況の把握(%)	100	89.9	100		100		100		100	
⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	75	55.1	75	56.8	75		75		75			
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	85	76.2	86	70.4	87		88		90			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027		
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	
中学校	①CEFR A1レベル相当以上の英語力を有する生徒の割合(%)	52	49.1	53	46.8	56		58		60		
	②授業における、生徒の英語による言語活動の割合(%)	100	90.5	93		96		98		100		
	③スピーキングテストとライティングテストの両方を実施した割合(%)	100	93.7	96		98		99		100		
	④「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	100	100		100		100		100	
		公表(%)	100	87.3	91		94		97		100	
		達成状況の把握(%)	100	96.6	100		100		100		100	
	⑤CEFR B2レベル相当以上の英語力を有する英語担当教員の割合(%)	50	42.4	45	44.2	47		49		50		
⑥英語担当教員の授業における英語使用状況(%)	100	82.1	87		92		96		100			

校種	指標内容	2023		2024		2025		2026		2027	
		目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値	目標値	達成値
小学校	「CAN-DOリスト」形式による学習到達目標の整備状況	設定(%)	100	98.8	100		100		100		100
		公表(%)	90	74.5	82		88		94		100
		達成状況の把握(%)	100	96.3	100		100		100		100